

「とつとりの未来をつくる」
美術館が生まれます!

作品収集

後編

さまざまなプログラムや体制の整備が進むなか、県内外から特に
関心を集めているのが、鳥取県立美術館ならではのコレクション。
前号に続き、作品収集にまつわる質問にお答えします。

Q どんな作品を 収集しているの?

A 鳥取県ゆかりの作品から、国内外で
話題性のある作品まで多種多様で
す。時代とともに成長を続ける魅力的
なコレクション形成を図っています!

新しい美術館では、博物館美術部門
の収集方針に沿った鳥取県ゆかりの
作品に加え、国内外の近現代におけ
る優れた作品を収集。コレクションの
骨格をさらにたくましく、骨太にしてい
きます。どうぞご期待ください。

美術館整備局美術振興監
・美術館館長予定者
おさきしんいちろう
尾崎 信一郎

もっと詳しく知りたい
方は、鳥取県立美術館
プレサイトをチェック!

レクチャー&トーク「もっと知りたい! 美術館に
おける作品収集と鳥取県立美術館のコレク
ションについて」の開催報告を公開しています。



幅広いジャンルから
収集しています!
代表的なコレクションの一部をご紹介します!

洋画



左:佐伯祐三《オヴェールの教会》(1924年/キャンヴァス・油彩)
右:前田寛治《横梁の家族》(1928年/キャンヴァス・油彩)

彫刻



辻晋堂《沈黙》(1957年/陶彫)

近世美術・近代日本画



小早川秋聲《追分物語》(大正後期/絹本着色、六曲一隻)

工芸



作者不詳《腰巻/肩掛け》
(1945年~60年頃、木綿・紺絨
[岡村吉右衛門コレクション])

現代美術



© 2024 The Andy Warhol Foundation for the Visual Arts, Inc. / Licensed by ARS, New York & JASPAR, Tokyo G3454
アンディ・ウォーホル《ブリロ・ボックス》
(1968年/木・シルクスリーンプリント)

写真



上:やなぎみわ《My Grandmothers MOEHA》
(2009年/発色現象方式印刷)
下:植田正治《マリバとママとコマドモたち》
(1949年/ゼラチン・シルバー・プリント)

今号の運び人 passer

舞台は 白谷工房 〒689-5671 鳥取県日野郡日南町福塚 1002-1



日野郡日南町で
寄木細工の工房を営む
木工職人
中村健治さん

鳥取県日野郡日南町生まれ、
在住。大工として働く傍ら、
廃材から独学で寄木細工
のアクセサリをつくるよう
に。2012年の作品展をきっ
かけに販売を開始、2016年
12月に旧福栄保育園に工房
を構える。
https://
shiroitani-koubou.com/

開館に向け
鳥取各地を
白い箱が旅します



Q どんな活動を しているの?

A 古い民家を解体した木や建築現場で出た
端材を用い、寄木細工によるアクセサリ
や生活雑貨、文房具、家具などをつくっ
ています。長い年月をかけて成長し使われてきた木は、
素材としても魅力的。廃棄されるものを少しでも減ら
し、別のかたちで生まれ変わらせたいと考えています。

Q 鳥取県立美術館に 期待することは?

A 待望の、そして県立としての美術館がで
きることは、率直に楽しみです。倉吉は、
大工だった頃に暮らしていたり、妻の出身
地だったり縁があり、今もよく訪れる場所。普段から
美術館で作品を鑑賞することも好きなので、これから
倉吉でもいろんな展示が見られることを期待してい
ます。ワークショップもやりたいですね。

中村さんへの取材レポートは
Webメディア「totto」にて公開中!



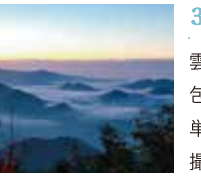
passer's Recommend



1 自家製のお米
朝晩の寒暖差、冷たい水も、
お米にはいい環境なのかな。
野菜も育てています。
美味しいですよ。



2 かしらうち
福榮神社の伝統行事で、五
穀豊稔の喜びを太鼓を鳴
らし奉納します。私も息子も
小学生のときに叩きました。



3 鬼林山の雲海
雲が幕ようになって山を
包み、とても幻想的。車で簡
単に山頂に登れる。絶好の
撮影スポットです。

県博 NEWS & TOPICS

01 アートって、なに? ~ミュージアムで過ごす、みる・しる・あそぶの夏やすみ



新しい美術館開館まで1年を切った夏休み。自由に
遊びながら会場を巡ることで、アートの広がりや面白
さに出会える体験=展覧会を開催します! 50年以上
展開してきた美術部門の活動を踏まえて、当館のコレ
クションはもちろん、国内外で活躍する注目作家の作品
などを紹介します。お楽しみに。

会期 2024年6月29日(土)-8月25日(日)
※7月29日(月)休館
会場 鳥取県立博物館 第1,2,3特別展示室
時間 9:00-17:00(入館は16:30まで)
※会期中の毎週土曜日は19:00まで開館
料金 一般1,000円(団体・前売・大学生・70歳以上は800円)
◀さまざまなコレクションをミックスして紹介した展示の様子
(県立博物館/2019)

アートの種まきプロジェクト絶賛進行中!

お気軽にご参加ください!

宮原翔太郎ワークショップ・プログラム

長ーい祭りの準備プロジェクト

「バレー建築」の宮原さんと一緒に、美術館開館に合わせ、手づくりの
「パレード」を開催する企画。大型の屋台(山車)をはじめ、お揃いの衣装や
踊りなどについて話し合い中。楽しみながら「祭り」の準備に取り組んでいます。
プレイベント「屋台、山を越える。」(2023年7月22日実施)かつて吉岡温泉の祭りに使われて
いた屋台を曳いて移動するイベントを開催。美術館のオープンに向け、改造を進めています。



AHA! | アート・フィールド・リサーチ・プロジェクト

「しあわせのかたち」-もうひとつの「植物図鑑」(仮)

AHA!の松本篤さんを招聘し、県内の知られざる地域資源を発掘する調査活動
を展開しています。植物を《育てる》営みに注目し、その体験から「しあわせ
のかたち」を探究テーマに設定。研究会やワークショップを通して、エピソード
や痕跡としての「鉢」を集めて「図鑑」をつくります。



各ご家庭にお持ちの不要になった「鉢」を集める取り組みをはじめます。ご協力のほど、よろしくお願ひします。

>>> 各イベントの詳細については、「鳥取県立美術館ウェブサイト」をご覧ください

「Pass me!」は令和7年(2025年)春開館予定の鳥取県立美術館ができるまでを発信するフリーペーパーです。県民一人ひとりがプレイヤーとなって、さまざまな人へと「Pass」しながら、ともに鳥取県立美術館をつくっていく足跡を伝えます。
発行日:2024年3月30日 発行元:鳥取県立博物館 編集ディレクション・編集:多田智美(MUESUM) 編集:水田美世 アートディレクション&デザイン:三宅航太郎(MAA)、加藤咲 イラスト:秦歩美 表紙:今号の運び人撮影:藤田和俊

県民とつくる

鳥取県立美術館ができるまでを伝える現状報告マガジン

Pass me!

パスマー!

10



開館に向け、
各地で取り組みが
進行中!

美術館の開館日が、「2025年3月30日」に決定しました!

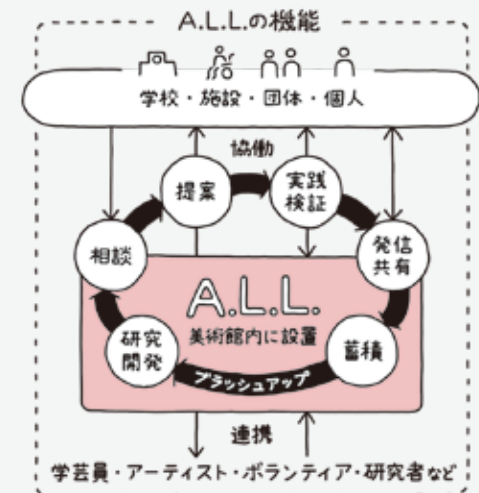
HISTORY OF MUSEUM

2023 (R5)

7/27 ほか

「A.L.L.(オール)」の開設*を見据えた、学校教職員向け研修も随時開催中!

一般の方を対象とした企画以外に、幼稚園・保育園を含む学校教職員対象の研修会にも精力的に取り組んでいます。なかでも夏休み期間の授業相談や研修申込は多数。鳥取県立博物館が蓄積してきた情報や資料、活動実践から得たノウハウなどを活用し、できる限りのご相談にお応えする体制づくり・場づくりを進めています。



「Art Learning Lab.(アート・ラーニング・ラボ)」とは? すべての人々の「アートを通じた学び」を支援する研究室。各学校、施設、団体、個人の利用者からの[相談]を受け、その後の活動を[提案]、実践した様子を[実践検証]、その記録を[蓄積]していくサイクルで、アートの学びにまつわる研究を充実させていきます。美術館には、新たな拠点も設置予定。県立博物館の教育普及部門の取り組みも継承しつつ、活動をアップグレードする予定です!

8/6

対話型鑑賞ファシリテーター養成研修3 「夏の5時間スペシャル」を開催!

アートエデュケーターの三ツ木紀英さんを講師に迎え、本研修プログラム初となる対話型鑑賞のファシリテーター実践講座を開催しました。講義後は、役割を交代しながら対話型鑑賞を実践。相互の意見交換、講師からのアドバイスを通して、ファシリテーション力を身につける貴重な機会に。長丁場にもかかわらず、多くの方が最後まで参加し、熱い濃密な研修となりました。

研修の詳細はこちら

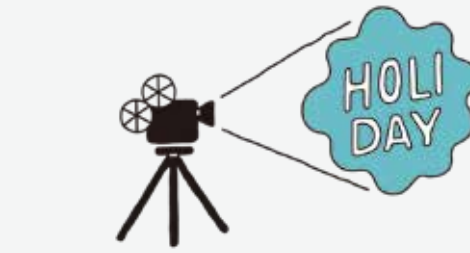


泊口直江さん

(対話型鑑賞ファシリテーター登録者) 講義後に即実践ということもあり、ドキドキでした。でも、参加者のみなさんのあたたかな受け止めと振り返り、そして三ツ木先生の適確なアドバイスで、たくさんの気づきと学びがありました。充実した5時間はあっという間に過ぎ、対話型鑑賞の面白さに引き込まれた半日でした。



体験→理論→ファシリテーション実践と、段階を追って学んでいく



8/27

日曜日にもアートシアター開催!

より多様な来館者のニーズに応えるべく、「毎週土曜はアートの日!」(平成半ばの学校週休2日制への移行に応じて始動した普及プログラム)を見直しました。今後は、さまざまな企画を土曜日限定することなく開催予定。恒例企画のアートシアターのほか、ワークショップやアートセミナーを日曜・祝日も開催しています!

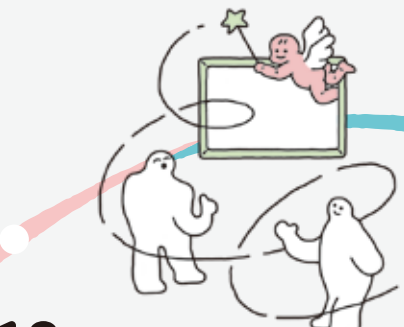
9/1~24

移動美術館「みる」からはじまる『対話型鑑賞』のススメを開催

今年度の「移動美術館」は、“お話しながるるのが楽しい作品”をセレクトした展覧会を開催。会期中には、日南町美術館の浅田学芸員やファシリテーター登録者の後藤さんにもご協力いただき、来館者と一緒、作品の前に見つかったことや感じたことなどを対話しながらじっくり鑑賞しました。



日南町美術館にて地元の中학생とともに対話型鑑賞をする様子



10/7

対話型鑑賞ファシリテーター養成研修4開催

コーチングのプロフェッショナルとしてご活躍中の佐藤敬子先生を講師にお迎えし、「ナラティブな対話で育てる関係性—コミュニケーションは“わがらうとする”こと」と題した研修を行いました。

10/13

『Pass me!』9号目発行!



とっとり県美応援団のみなさま、いつも発送作業にご協力ありがとうございます!

Collection Recommend

かわい神様は会いたくない人に おすすめの名作
おかわら ちかえん 岡村吉右衛門(集(線))
1992年/紙・型染め版画 59.5×41.0cm



美術館整備課 専門員 佐藤真菜選

羽を閉じ、ほんの少し首をかしげてつぶらな瞳でこちらを見つめる1羽の鳥。愛らしいアイヌの神様です。型染め版画の技法によって単純化され、限られた色彩で表現されていますが、それでもなお、深さと優しさをたたえたその姿に心はキュンキュンです。

解説

1916年(大正5)に現在の鳥取市内に生まれた岡村は、20歳頃から約50年にわたり国内外で調査研究活動を行い、それをもとに作品を制作。とりわけ北海道は、岡村にとって特別な場所で、アイヌの文化を大切に守ってきた人々に寄り添うよう表現することを望んだ。



11/5

待ちに待った美術館開館日を発表!

いよいよ完成が近づいてきた美術館で、「開館まであと(ほぼ)500日前イベント」を開催。平井知事から、「2025年3月30日OPEN!」がカウントダウンボードのお披露目とともに大々的に発表されました。

10/15

「赤ちゃんたちのためのアート鑑賞パラダイス」開幕!

「こどもと美術館」といったテーマでオープンミーティングを重ね、子育て世代、保育・医療・福祉関係などの参加者の声を、ひとつのかたちにした展覧会を開催しました。合言葉は、“0歳からのアートとの出会いを全力応援!”。さまざまな仕掛けやワークショップを盛り込んだ会場は、連日多くの赤ちゃんたちでにぎわいました。



櫻井重久さん (展覧会サポーター) 普段は医師として働いていますが、病院とは異なる視点から、私たちのウェルビーイングについて、来場した多くの方と意見を交わすことができ、幸せな時間でした。まさに、みんなで作った OPENNESSな展覧会。新しい美術館の完成がとても待ち遠しいです!



展示作品を見つめる赤ちゃん



家族で鑑賞を楽しむ様子

本格始動を見据えて、さまざまなプログラムを続々と準備中です!

12/2

新企画「しあわせのかたち」(仮称) 公開プレゼンテーションと交流会を開催

県内の知られざる地域資源に焦点を当てるアート・フィールド・リサーチ・プロジェクト。AHA!*の松本篤さんより、昨年度から着手した予備調査について、また今後の展開が語られました。“植栽や鉢植えを育てる経験”を通して垣間見える「しあわせのかたち」(仮称)をテーマに、協力者を募りながらリサーチが進む予定です!

*市井の人びとの「小さな記録」に潜む価値に着目したアーカイブづくりを行う、NPO法人remoを母体としたプロジェクト。正式名称はAHA! [Archive for Human Activities/人間の営みのためのアーカイブ]



講師の松本篤さんによるプレゼンテーション

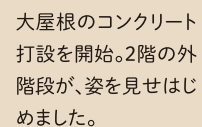


プロジェクトに興味をもった県民のみなさんとの意見交換



2022年3月から本着工した鳥取県立美術館。建物が少しずつ出来上がっていく様子を、さまざまな角度から観測してみました。

2023.03



大屋根のコンクリート打設を開始。2階の外階段が、姿を見せはじめました。

2023.04



建物西面の外壁塗装に着手。1階では、カーテンウォールの取り付けが完了しました。

2023.05



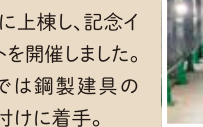
ついに上棟し、記念イベントを開催しました。1階では鋼製建具の取り付けに着手。

2023.06



3階の間仕切り壁取り付け開始。西面の外壁塗装も完了。足場も解体されずっきり。

2023.07



各諸室の天井が貼られました。軒天木ルーバーの取り付けにも着手。

2023.08



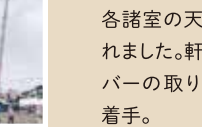
軒天木ルーバーの取り付けが完了。東面の外壁塗装も完了し、外観が見えてきました。

2023.09



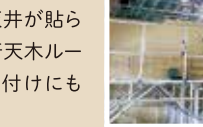
1階では内装工事が着々と進行。2階では展示ケースの取り付けがはじまりました。

2023.10



東面の足場も解体され、全貌が見えるように。3階展示室の可動間仕切り壁も着手。

2023.11



展示ケースの取り付けがはじまりました。

2023.12



展示ケースの取り付けがはじまりました。